斎藤信房先生のご逝去を悼んで

冨永　健（化学専攻　名誉教授）

故・斎藤信房名誉教授

斎藤信房名誉教授（化学専攻）は，ご療養中のところ2007年12月19日に逝去されました。享年91才でした。先生は，1940年に東京帝国大学理学部化学科をご卒業，京城帝国大学理工学部助教授で終戦を迎えられました。その後，九州帝国大学理学部助教授を経て，東京大学理学部に助教授として着任され，1956年教授に昇任，無機化学講座を担任されました。以来1977年のご停年まで理学部で研究と教育に尽力されました。また，理化学研究所の主任研究員も兼ねられました。1970年からは，先生のご尽力で新設されたアイソトープ総合センターの初代センター長もつとめられました。ご停年後は，東邦大学理学部教授・理学部長，また1990年以降は，(財）日本分析センターの理事長，会長を歴任されました。また，日本化学会や日本分析化学会の会長のほか，国内の原子力・放射線関係の委員会，審議会，国際原子力機関（IAEA）などでも活躍されました。

先生のご研究は，温泉沈殿物や鉱物・岩石など天然物中の同位体の分布に始まり，無機化合物の核反応で生じた励起原子や分子の特異な挙動（ホットアトム化学），線源からの放射線の共鳴吸収を化学状態のプローブに用いるメスバウアー分光法の新たな応用の開発など，無機同位体化学・放射化学の広い分野にわたり，優れた業績を残され，日本化学会賞，紫綬褒章，勲二等瑞宝章を受けられました。

ちょうど50年前，私が卒業研究で師事してから，誠実で，温厚な中にも厳しい紳士という先生の印象が変わることはありませんでした。明治大正生まれの学者の風格，あるいは「品格」とでもいうのでしょうか。先生にはそれを感じました。ゆえに私たちの尊敬の念も一層深まったのです。

先生のモットーは，「100点満点を目指さず，自然体で80点を目標に」というものでした。それでも私には，先生の達成されたことは万事100点以上に感じられました。100点をとると公言しながら実は80点しかとれないような後進への戒めかもしれませんが。不肖の弟子達にとって，先生の温容に接し，まだまだご教示を乞いたいと願っていた矢先の訃報は誠に残念でなりません。ここに心から先生のご冥福をお祈り申し上げます。

人事異動報告

所属	職名	氏名	異動年月日	異動事項	備考
物理	助教	神原　浩	2007.10.31	辞職	
物理	助教	松井　朋裕	2007.11.1	採用	学術研究支援員から
化学	准教授	山下　恭弘	2007.11.1	採用	科学技術振興機構から
化学	助教	中林　耕二	2007.11.1	採用	
化学	事務室主任	須長　健介	2007.11.1	昇任	柏地区数物連携宇宙研究機構事務部門給与・旅費係長へ
化学	事務室主任	渡邉　和弘	2007.11.1	配置換	附属植物園事務室主任から
生化	特任助教（産学官連携研究員）	西　賢二	2007.11.1	称号付与	
生化	特任助教（特定プロジェクト特任教員）	小早川　高	2007.11.1	採用	学術研究支援員から
生科	特任助教（COE特任教員）	柳澤　春明	2007.11.1	採用	
生科	特任助教（COE特任教員）	那須　信	2007.11.1	採用	学術研究支援員から
植物園	事務室主任	笹崎　浩一	2007.11.1	配置換	経理チーム主任から
地惑	教授	茅根　創	2007.11.16	昇任	准教授から
生化	特任助教（COE特任教員）	芹澤　尚	2007.11.30	辞職	

東京大学大学院理学系研究科・博士学位取得者一覧

（2007 年 10 月，11 月）

（※）は原著が英文（和訳した題名を掲載）

種別	専攻	申請者名	論文題目
2007 年 10 月 31 日付学位授与者（3 名）			
課程博士	地惑	猿楽　祐樹	2P/ エンケ彗星ダスト雲の観測的研究（※）
課程博士	化学	金子　健二	人口鋳型ペプチドを用いたディスクリートなハロゲン架橋白金錯体への合成アプローチ
課程博士	生科	黒崎　辰昭	*ATXN1*，*ATXN10* 遺伝子におけるマイクロサテライトリピートの分子進化（※）
2007 年 11 月 19 日付学位授与者（2 名）			
論文博士	物理	後藤　隼人	結晶中の希土類イオンを用いた量子状態制御および共振器量子電磁力学（※）
論文博士	生化	兒玉公一郎	タンパク質上で進行するパラジウム触媒反応 - タンパク質工学への展開 -
2007 年 11 月 30 日付学位授与者（1 名）			
課程博士	化学	宇津野充弥	アントラキノン共役テルピリジン配位子による遷移金属錯体の集積化と光化学的・レドックス挙動（※）

あとがき

2008 年がスタートしました。気持ちも新たに，理学部ニュースの編集に力を注ぎたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

本号では 3 件取り上げていますが，現在，理学系研究科では，公開講演会やサイエンスカフェなどを通じて，学外の方々に本研究科での研究についてご理解していただけるよう尽力しております。理学部ニュース同様，先生方のご協力をお願いします。

こうした活動の記事を拝見しておりますと，「理科ばなれ」がうそのように思えます。自分たちの考えたこと，研究したことをお持ちになられて，教員や院生の方々に質問される高校生もいらっしゃったと聞きます。開かれた大学を目指すときには，こうした「理科好き」な生徒さんの力を大きく伸ばすような，ひじょうに面白い研究をわかりやすく説明することがたいへん重要だなと改めて思います。そのときに，必要となるのは，その研究成果やその成果のつくる夢だけではなく，これまで，人類が受け継いできた研究の歴史を正しく認識し，伝えることかもしれません。サイエンスも人間の営みなのでしょう。人間は分子･原子までも見られるようになってきました。自然はそれを組み合わせて宇宙・世界をつくっています。その両方に関わっている理学系はひじょうに広いソサエティで，そこで行っている研究は，多くの人の興味をひくものであるはずです。

「あなたはあなたの選んだものでできている」という CM がありますが，私たちは，人間がこれまで選んで学んで研究してきたものでできているのでしょう。一方で自分の研究を振り返ってみると，ほとんど体系化されてきていません。年はとり，折り返し地点にきていますが，研究者としてはまだまだ駆け出しのようです。さらに努力していかなければならないと感じています。

米澤　徹（化学専攻　准教授）

第 39 巻 5 号
発行日：2008 年 1 月 20 日
発　行：東京大学大学院理学系研究科・理学部
〒 113 - 0033　東京都文京区本郷 7 - 3 - 1
編　集：理学系研究科広報委員会所属 広報誌編集委員会（e-mail：kouhou@adm.s.u-tokyo.ac.jp）
牧島　一夫（物理学専攻）maxima@phys.s.u-tokyo.ac.jp
横山　央明（地球惑星科学専攻）yokoyama.t@eps.s.u-tokyo.ac.jp
上田　貴志（生物科学専攻）tueda@biol.s.u-tokyo.ac.jp
米澤　　徹（化学専攻）tetsu@chem.s.u-tokyo.ac.jp
渡辺　正昭（庶務係）mwatanabe@adm.s.u-tokyo.ac.jp
加藤　千恵（庶務係）c-kato@adm.s.u-tokyo.ac.jp
広報・科学コミュニケーション：
横山　広美　yokoyama@adm.s.u-tokyo.ac.jp
HP 担当：
柴田　　有（ネットワーク）yuu@adm.s.u-tokyo.ac.jp
HP ＆ページデザイン：
大島　　智（ネットワーク）satoshi@adm.s.u-tokyo.ac.jp
印刷・・・・・・・・・・・・・・三鈴印刷株式会社